

パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」をONに設定してあります。

※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

暗いところで本機を約30～35分間放置します。

→液晶表示が消え、スリープマークが点滅します。

アラーム・時報の報音は行ないます。



●スリープ状態を解除するには

本機を明るいところに置か、いずれかのボタンを押すか、オートライト（「●文字板を発光させる」）のように傾けたりします。

※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大5秒かかる場合があります。

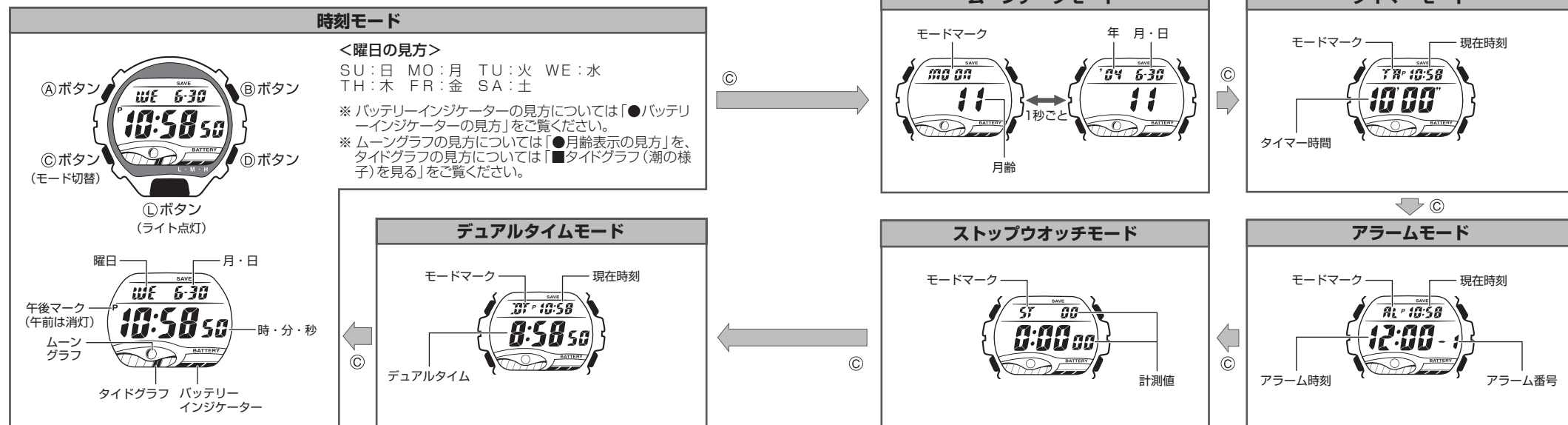
●パワーセービング機能のON / OFF

パワーセービング機能を働かせなくするには「時刻・カレンダーの合わせ方」をご覧ください、パワーセービング機能をOFFにしてください。

机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をONにしておけば、節電効果があります。

操作のしくみと表示の見方

◎ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順でモードが切り替わります。



電源について

本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光が当たるようにしてお使いください。

二次電池が消耗して時計機能が停止すると(レベル4)、メモリーされているデータや設定は消去されます。

●リカバーマークが点滅している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- ELバックライトの点灯
- アラーム・時報などの報音

この場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。



リカバーマーク

●バッテリーインジケータの見方

レベル1		すべての機能が使用可能
レベル2		すべての機能が使用可能
レベル3		液晶表示不可、EL点灯不可、アラーム・時報などの報音不可
レベル4		時計機能停止 (時計発振不可)

※直射日光下などの強い光で充電した場合、バッテリーインジケータが一時的に実際の電池容量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。

※レベル4になっても再度充電を行なうことで使用できます。このときは、レベル2またはレベル1になるまで十分に光を当ててから、時刻・カレンダーを合わせてください。

※レベル4から充電したときは、レベル3になると表示が点灯しますが時刻・カレンダー合わせはできません。

●充電必要サイン

レベル3の状態は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。

●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。

- 炎天下に駐車中の車のダッシュボード
 - 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
 - 直射日光が長く当たって、高温になる所
- なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなるがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。



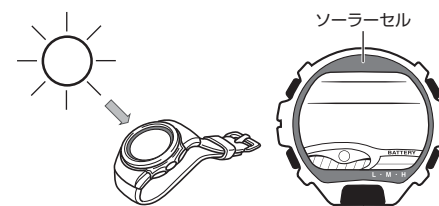
充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部分を光源に向けます。

※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますので、ご注意ください。

例) 時計の置き方



※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作に加え、下記の条件で使用した場合に約11ヶ月動き続けます。

- 1日あたりの使用量
- ライト：1.5秒間
 - 電子音：10秒間
 - タイマー計測：1回
 - 表示点灯：18時間

なお、こまめに充電を行えば、安定してご使用いただけます。

* 基本動作とは、時計内部の時刻演算処理のことです。

(1日動くのに必要な充電時間)
※左記の条件で使用した場合。

環境 (照度)	充電時間
晴れた日の屋外など (50,000ルクス)	約5分
晴れた日の窓際など (10,000ルクス)	約24分
曇り日の窓際など (5,000ルクス)	約48分
蛍光灯下の室内など (500ルクス)	約8時間

●各レベルに回復するための充電時間

環境 (照度)	充電時間			
	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
晴れた日の屋外など (50,000ルクス)	約2時間	約29時間	約8時間	
晴れた日の窓際など (10,000ルクス)	約7時間	約144時間	約40時間	
曇り日の窓際など (5,000ルクス)	約12時間	約293時間	約81時間	
蛍光灯下の室内など (500ルクス)	約140時間	---	---	---

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

表示照明用 EL バックライトについて

本機の表示部にはELパネル (エレクトロルミネッセンスパネル) が内蔵されており、暗いときに表示を明るくして見ることができます。また、時計を傾けると暗いときに文字板が発光するオートライト機能もあります。

■ ボタンを押して発光させる

～手動発光～

どのモードのときでも

① ボタンを押します

→ ① ボタンを押すと約1.5秒間文字板が発光します。

※オートライトOFFのときも

① ボタンを押すと発光します。



本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ (金属球) が内部で動くための音で、故障ではありません。

■ 時計を傾けて発光させる

～オートライト機能～

オートライトは、ボタンを押さなくても暗いときに時計を傾げるだけで文字板が発光する便利なフルオートライト機能です。

※明るいときは、自動発光しません。

暗い場所で時刻などを見るときに大変便利です。オートライト機能では、どのモードのときでも、時計を傾げるだけで文字板が約1.5秒間発光します。

準備：時刻モードのとき ② ボタンを約2秒間押し続けて、オートライトON (オートライトONマーク点灯) にします。

オートライトONマーク



※オートライトONのとき、② ボタンを約2秒間押し続けるとオートライトOFF (オートライトONマーク消灯) に戻ります。

●文字板を発光させる



※オートライト機能を使用するときは、時計を「手首の外側」にくるようにつけてください。

※文字板の左右 (3時-9時方向) の角度を±15°以内にしておいてください。15°以上傾いていると発光しにくくなります。



◀EL発光についてのご注意▶

- 直射日光下では発光が見えにくくなります。
- 発光中にアラームなどが鳴り出すと発光を中断します。
- 発光中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これはELパネルが点灯する際の振動音であり、異常ではありません。

◀オートライトご使用時の注意▶

- オートライトを頻繁に使用すると電池の持続時間が短くなりますのでご注意ください。
- 時計が服の袖に隠れるようにつけると、明るいときでもオートライトが点灯することがあります。
- 時計を傾けたとき、文字板の発光が一瞬遅れることがあります。異常ではありません。
- 文字板発光後、時計を傾けたままにしていても、発光は約1.5秒間のみとなります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしても発光することがあります。オートライトを使用しないときは必ずOFFにしておいてください。
- ※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトをOFFにしてご使用ください。
- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、発光しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも発光しにくいときは、腕を下からふりあげてみると発光しやすくなります。

ムーンデータの見方

月齢やタイドグラフ表示などのムーンデータは、場所により表示される値が異なります。ご使用前にあらかじめ使用する場所のデータ（時差・経度・月潮間隔）をセットしてください。

- 使用場所のセットは、一度行なえば再びセットする必要はありません。ただし、引越しや旅行などで大きく移動したときは、その場所に合わせてセットしなおしてください。
- 本機は工場出荷時は「使用場所＝東京（時差＋9.0、経度140E）、月潮間隔＝5:20」にセットされています。

■ 使用場所のセット

使用場所のセットは時刻モードで行ないます。

1. セット状態にする 時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約1秒間押します

⇒「秒」が点滅します。



c. 「月潮間隔」セットのとき

c-1 月潮間隔の「時」が点滅しているとき、ⒹまたはⒺボタンを押します

⇒Ⓓボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓔボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓓ・Ⓔボタンとも、押し続けると早送りができます。

※ INT=Lunitidal Interval（月潮間隔）



c-2 月潮間隔の「分」が点滅しているとき、Ⓒボタンを押します

⇒「分」が点滅します。



2. 使用場所のセットに切り替える

Ⓐ ボタンを押します

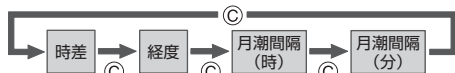
⇒「時差」が点滅します。



3. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

⇒Ⓒボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。



* 「■日本の緯度・経度」および「■時差と経度・月潮間隔」、「■月潮間隔一覧表」を参照してください。

5. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押して、点滅を止めます

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。



4. 時差、経度、月潮間隔のセット

a. 「時差」セットのとき

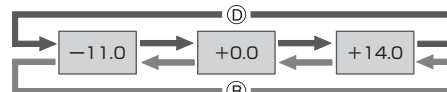
ⒹまたはⒺボタンを押します

⇒Ⓓボタンを押すごとに0.5時間ずつ進み、Ⓔボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓓ・Ⓔボタンとも、押し続けると早送りができます。

※ 本機でいう「時差」とは、「GMT（世界標準時）との差」を意味しています。

※ DIFF=Time Difference（時差）



b. 「経度」セットのとき

ⒹまたはⒺボタンを押します

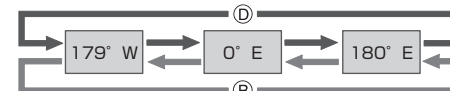
⇒Ⓓボタンを押すごとに1度ずつ進み、Ⓔボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓓ・Ⓔボタンとも、押し続けると早送りができます。

※ 経度は1度単位で表示されますので、1度未満の端数は丸めて入力してください。

※ LON=Longitude（経度）

例) 50° 40' = 51°



■ ムーングラフを見る

● 現在のムーングラフ（月の形）を見る

時刻モードのとき、グラフ部分に表示されます。

※ ムーングラフが示す月の形は、黒く点灯している部分が「月の影」で、点灯していない部分が「月の形＝見える形」です。

* ムーングラフの見方については「●月齢表示の見方」参照。

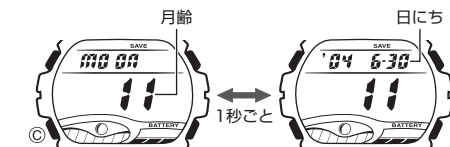


● 月齢とムーングラフを見る

時刻モードからⒸボタンを1回押して、ムーンデータモードに切り替えます。

<今日の月齢を見る>

ムーンデータモードに切り替えると、今日の月齢とムーングラフが表示されます。

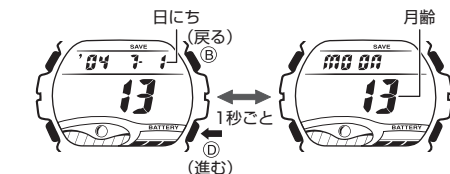


<好きな日の月齢を見る>

ⒹまたはⒺボタンを押します

⇒Ⓓボタンを押すごとに1日ずつ進み、Ⓔボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓓ・Ⓔボタンとも、押し続けると早送りができます。



●月齢表示の見方

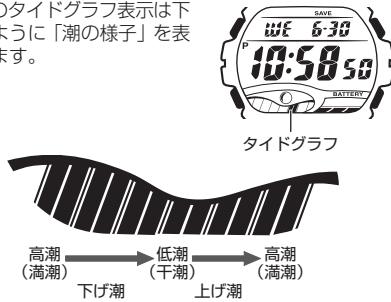
月の形	新月	上弦	満月	下弦
月齢	29 0 1	2 5 6 9	10 13 14 16 17 20	21 24 25 28
表示				

- 月の形は表示日の「正午」において、北半球を基準として月を南向きに見上げたときのおおよその形です。
※月の左右どちらかが欠けているかのみを表現するものであり、実際に見える月の形とは異なります。
なお、南半球や赤道付近で北寄りに月が見えるときは左右逆に見えます。
- 月の形は、時刻・カレンダーおよび使用場所を正しくセットしておかないと正しく表示されませんのでご注意ください。

■タイドグラフ(潮の様子)を見る

●現在のタイドグラフ(潮の様子)を見る

時刻モードのとき、グラフ部分に表示されます。
※本機のタイドグラフ表示は下図のように「潮の様子」を表わします。



ご注意

本機で表示される情報は、航海の用に供するものではありません。航海には必ず海上保安庁刊行の潮汐表を使用してください。
本機のタイドグラフ表示は、あくまで潮の満ち干きの様子を見る「目安」としてお使いください。

●好きな日のタイドグラフを見る

時刻モードから◎ボタンを1回押して、ムーンデータモードに切り替えます。

1. 日にちを選ぶ

◎または◎ボタンを押します

- ◎ボタンを押すごとに1日ずつ進み、◎ボタンを押すごとに戻ります。
- ※◎・◎ボタンとも、押し続けると早送りができます



2. タイドグラフ表示に切り替える

◎ボタンを押します

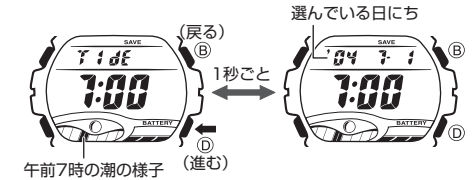
- ◎ボタンを押すごとに月齢表示とタイドグラフ表示が切り替わります。
- ※午前6時の潮の様子をタイドグラフで表示します。



3. 時間帯を選ぶ

◎または◎ボタンを押します

- ◎ボタンを押すごとに1時間ずつ進み、◎ボタンを押すごとに戻ります。
- ※◎・◎ボタンとも、押し続けると早送りができます。



■参考

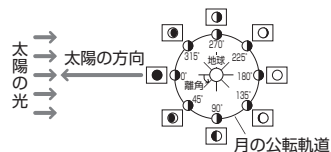
●月の満ち欠けと月齢

月は約29.53日の周期で満ち欠けを繰り返します。これは月の公転により、地球と太陽に対する月の位置(月の離角*)が少しずつずれることで、地球から見た「月の影の見え方」がかわるためです。
なお、月の満ち欠けや月相のことを天文用語では「月の盈虚(えいきよ)」と言います。

※月齢…新月(朔:さく)からの経過時間を日数で表したものです。

※月の離角…地球から見て太陽の見える方向からの角度です。

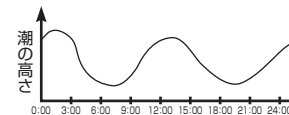
月の満ち欠け	月の離角	月齢
新月(朔:さく)	0°	0日
上弦	90°	約7日
満月(望:ぼう)	180°	約14日
下弦	270°	約22日



□内は地球から見た月の形(北半球基準)

●タイド(潮汐)とは

地球上の海面は、約6時間ごとに高くなったり、低くなったりする昇降運動を繰り返しています。
これは、潮汐(ちょうせき)と呼ばれ、主に月の引力による現象です。



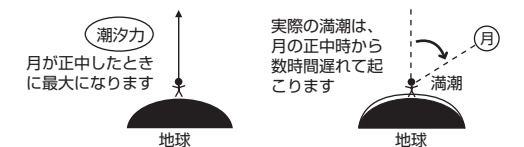
●本機のタイドグラフは

本機は、月の正中時間と月潮間隔から、潮の満ち干きの様子をグラフ表示(=タイドグラフ)します。地域(港)により月潮間隔が異なるため、あらかじめその時間(=月潮間隔)を本機に設定しておく必要があります。地域ごとの月潮間隔は「■月潮間隔一覧表」を参照してください。
※なお、日本海側および半月(小潮)のときは、潮汐現象がはっきり現れないため、誤差が大きくなります。

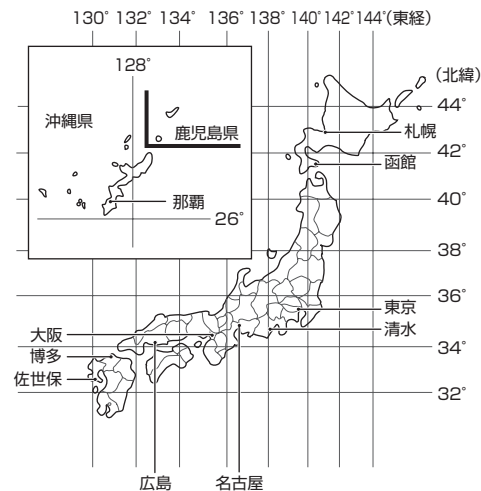
●月潮間隔について

理論上では、月が正中したとき(下図左)に高潮(満潮)になり、その約6時間後に低潮(干潮)になるといわれています。ただし、実際の地球上では、海水の粘性や摩擦、海底の地形などの影響によって正中時より遅れて高潮になります(下図右)。この時間差を「月潮間隔」と呼びます。

月が正中後、高潮になるまでの時間差を「高潮間隔」、低潮になるまでの時間差を「低潮間隔」と呼び、この2つを総称して「月潮間隔」といいます。「月潮間隔」は同じ日本国内でも地域(港)により異なります。なお、それぞれの地域で長期間にわたって調査した「高潮間隔」の平均値を「平均高潮間隔」といいます。



日本の緯度・経度



時差と経度・月潮間隔

都市名	標準時差	DST	経度	月潮間隔
バコバコ	-11	-10	171°W	6:40
ポポル	-10	-9	158°W	3:40
バベラ	-10	-9	150°W	0:10
アンカレジ	-9	-8	149°W	5:40
ロサンゼルス	-8	-7	118°W	9:20
バンクーバー	-8	-7	123°W	5:10
シアトル	-8	-7	122°W	4:20
マイアミ	-5	-4	80°W	7:30
ボストン	-5	-4	71°W	11:20
パナマ	-5	-4	80°W	3:00
リマ	-5	-4	77°W	5:20
リオデジャネイロ	-3	-2	43°W	3:10
フエノスアイレス	-3	-2	58°W	6:00
ロンドン	+0	+1	0°E	1:10
カサブランカ	+0	+1	8°W	1:30
ダカール	+0	+1	17°W	7:40
リスボン	+0	+1	9°W	2:00
ハンブルグ	+1	+2	10°E	4:50
ジェッタ	+3	+4	39°E	6:30
モーリシャス	+4	+5	57°E	0:50
カラチ	+5	+6	67°E	10:10
ムルティ	+5	+6	74°E	0:10
バンコク	+7	+8	101°E	4:40
ジャカルタ	+7	+8	107°E	0:00
香港	+8	+9	114°E	9:10
シンガポール	+8	+9	104°E	10:20
上海	+8	+9	121°E	1:20
マニラ	+8	+9	121°E	10:30
東京	+9	+10	140°E	5:20
シドニー	+10	+11	151°E	8:40
メルボルン	+10	+11	145°E	2:10
グアム	+10	+11	145°E	7:40
ケアンズ	+10	+11	146°E	9:40
ゴールドコースト	+10	+11	154°E	8:30
ヌメア	+11	+12	166°E	8:30
ウェリントン	+12	+13	175°E	4:50

※ この表は2003年現在作成のものです。
 ※ 時差は協定世界時 (UTC) を基準としたものです。
 ※ DSTとはサマータイムのことです。Daylight Saving Timeの略です。
 また、DSTの採用時期は各都市により異なります。採用していない都市もありますのでご確認ください。

月潮間隔一覧表

～日本の港における平均高潮間隔～

地域	地(港)名	平均高潮間隔 時分	地域	地(港)名	平均高潮間隔 時分	地域	地(港)名	平均高潮間隔 時分
北海道北岸	紋別*	3:04	南方諸島	八丈島/神湊	5:28	本州北西岸	浜田	12:11
北海道西岸	稚内*	3:59		父島/二見	6:27		境	2:20
	留萌*	4:23	四国南岸	高知	5:59		舞鶴/第1区	2:27
	小樽*	4:10	瀬戸内海	和歌山	6:29		富山	2:50
北海道南岸	函館	3:46		小松島	6:13		新潟/西区	3:02
	室蘭	3:37		大阪	7:25		秋田	3:16
	苫小牧	3:49		神戸	7:28	九州北岸	博多/東浜新心領	9:36
	姫路	3:41		姫路/飾磨*	11:08		唐津	9:22
	釧路	3:39		宇野	11:10		刘馬/巖原	8:42
本州北岸	青森	3:32		高松	11:15	九州西岸	佐世保	8:17
	大湊	3:44		水島	11:18		長崎/松ヶ枝	7:55
本州東岸	八戸	3:37		尾道	11:03		三池	8:50
	釜石	3:53		新居浜	11:01		三角	8:42
	塩釜/港橋	4:04		広島	9:36	九州南岸	鹿児島	7:05
	小名浜	4:15		呉	9:38	九州東岸	油津	6:01
	鹿島	4:23		松山	9:07		細島	6:06
東京湾	千葉灯標	5:15		大分/鶴崎	8:22	南西諸島	奄美大島/名瀬	6:49
	東京/芝浦	5:18		刈田	8:53		那覇	6:50
	横浜/新山下	5:18		徳山	8:41			
	横須賀	5:15		宇部	8:49			
本州南岸	南伊豆(小稲)	5:36		下関/壇の浦	8:58			
	清水	5:47		門司/旧門司	8:57			
	衣浦/武豊	6:04		八幡	9:52			
	名古屋	6:09	豊後水道	宇和島	7:15			
	四日市	6:05						
	尾鷲	5:54						
	串本	6:02						
	田辺	5:58						

この表の使い方
 本機を使用する場所(港)を探し、その場所に一番近い地域の月潮間隔を読み取り、その時間を本機に入力すると、その場所でのタイドグラフを表示できます。

※上記の表は、高潮と低潮が1日2回ずつおきかるときの月潮間隔を記載しています。ただし、*印のついた地域は、高潮と低潮の間隔にばらつきがあるため、季節により高潮と低潮が1日1回ずつしか起きないことがあります。このような時期では、本機のタイドグラフと実際の潮汐現象とが大きく異なりますのでご注意ください。

出典：海上保安庁「書誌第781号 平成10年 潮汐表 第1巻 日本及びその付近」
 水路図誌利用「海上保安庁図誌利用 第100043号」

時刻・カレンダーの合わせ方

充電切れなどで、時刻やカレンダーが合っていないときは、以下の方法でセットします。
 ※パワーセービング機能のON/OFF設定も以下の操作で行ないます。

以下の操作は時刻モードで行ないます。

3. 点滅箇所のセット

a. 「秒」セットのとき

時報に合わせて **ⓐ** ボタンを押します

→「00秒」からスタートします。

※秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00秒」になります(時報は「時報サービス117番」が便利です)。



時刻・カレンダーのセット

1. セット状態にする

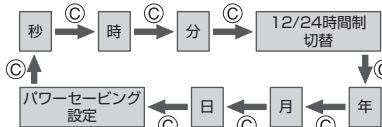
時刻モードのとき **ⓐ** ボタンを約1秒間押します



2. セット箇所を選ぶ

ⓐ ボタンを押します

→ **ⓐ** ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。



b. 「時」「分」「年」「月」「日」セットのとき

ⓐ または **ⓑ** ボタンを押します

→ **ⓐ** ボタンを押すごとに1つずつ進み、**ⓑ** ボタンを押すごとに戻ります。



c. 「12/24時間制切替」のとき

ⓐ ボタンを押します

→ 12時間制表示「12H」と24時間制表示「24H」が切り替わります。



d. 「パワーセービング設定」のとき

ⓐ ボタンを押します

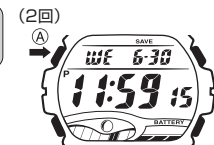
→ パワーセービング機能のON/OFFが切り替わります。



※パワーセービング機能をONにすると、パワーセービングマークが点灯します。

4. セットを終る

ⓐ ボタンを2回押し、点滅を止めます



※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

タイマーの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい **ⓐ** ボタンを押し、タイマーモードにします。

タイマー時間は分単位で60分まで（リセット時間は1分から5分まで）セットすることができ、1秒単位で減算計測を行ないます。また、本機ではリセット時間から計測を簡単にやり直すこともできます。

タイマーの種類

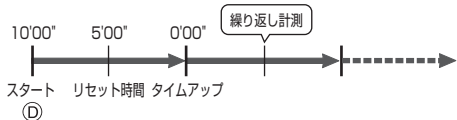
本機のタイマーは2種類あり、以下のように計測を行ないます。本機はヨットやサーフィンのレースに使用すると大変便利です。

●オートリピードタイマー

タイムアップしても、計測ストップするまで自動的にタイマー時間に戻り、繰り返し計測を行ないます。

※繰り返し計測は合計8回行なうと、自動的に計測がストップします。

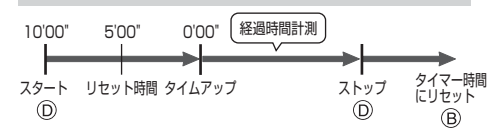
例) タイマー時間 = 10分、リセット時間 = 5分



●リピートタイマー（経過時間自動計測）

タイムアップすると自動的に経過時間計測を行ないます。

例) タイマー時間 = 10分、リセット時間 = 5分



★予告音について

リセット時間の10秒前から1秒ごとに電子音が鳴ります。リセット時間を経過すると、1分ごとに電子音が鳴ります。タイムアップの30秒前に電子音が鳴ります。※予告音はON / OFFの切り替えができます。

★タイムアップ音について

タイムアップの10秒前から1秒ごとに電子音が鳴ります。

c. 「予告音のON / OFF 切替」のとき

ⓐ ボタンを押します

⇒ **ⓐ** ボタンを押すごとにON / OFFが切り替わります。
※ONにすると、予告音マーク「♪」が点灯します。

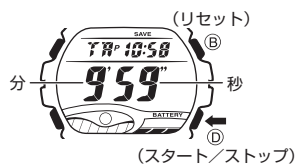


タイマーの使い方(減算計測のしかた)

タイマーモードのとき

ⓐ ボタンを押します

⇒ **ⓐ** ボタンを押すごとに計測がスタート / ストップします。
※計測は1秒単位で行ないます。



- 計測ストップ後 **ⓐ** ボタンを押すと、計測前の表示に戻ります（タイマー時間にリセット）。
- ロスタイムがあるときは、**ⓐ** ボタンでストップ後、もう一度 **ⓐ** ボタンを押すと表示タイムに引き続き計測を始めます。
- 計測中に **ⓐ** ボタンを押すと、リセット時間を表示して計測がストップします。その後、**ⓐ** ボタンを押すと、リセット時間から計測を再開します。
- リピートタイマーで、経過時間計測中に **ⓐ** ボタンを押すと、計測がストップします。ストップ後 **ⓐ** ボタンを押すと、タイマー時間表示に戻ります。

4. セットを終わる

ⓐ ボタンを押して、点滅を止めます

※点滅表示のまま2~3分間すると、自動的に点滅が止まります。

タイマーのセット

1. セット状態にする タイマーモードのとき

ⓐ ボタンを約1秒間押しします

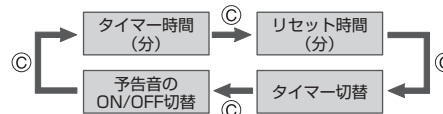
⇒タイマー時間の「分」が点滅します。
※計測ストップ状態からは、セット状態に切り替わりません。このようなときは、**ⓐ** ボタンを押してタイマー時間にリセットしてから、**ⓐ** ボタンを約1秒間押しするとセット状態になります。



2. セット箇所を選ぶ

ⓐ ボタンを押します

⇒ **ⓐ** ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。



3. 点滅箇所のセット

a. 「タイマー時間」「リセット時間」セットのとき

ⓐ または ⓐ ボタンを押します

⇒ **ⓐ** ボタンを押すごとに1つずつ進み、**ⓐ** ボタンを押すごとに戻ります。
※ **ⓐ**・**ⓐ** ボタンとも、押し続けると早送りができます。
※タイマー時間は1分(1'00") ~ 60分(60'00")までセットできます。
※リセット時間は1分(1'00") ~ 5分(5'00")までセットできます。リセット時間はタイマー時間を超えてセットすることはできません。



b. 「タイマー切替」のとき

ⓐ ボタンを押します

⇒ **ⓐ** ボタンを押すごとにオートリピードタイマーとリピートタイマーが切り替わります。
※ONにすると、オートリピードタイマーになり、オートリピードマーク「**ⓐ**」が点灯します。



ストップウォッチの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい **ⓐ** ボタンを押し、ストップウォッチモードにします。

ストップウォッチは1/100秒単位で99時間59分59秒99（100時間計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。

計測のしかた

ストップウォッチモードのとき

ⓐ ボタンを押します

⇒ **ⓐ** ボタンを押すごとに計測がスタート / ストップします。



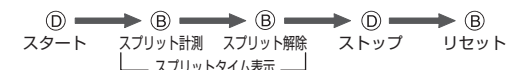
- 計測中に **ⓐ** ボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続けるスプリット計測となります（「SPL」表示）。
※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。
- 計測終了後 **ⓐ** ボタンを押すと、計測値が0に戻ります（リセット）。

●通常計測



積算計測…ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずに **ⓐ** ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測



●1・2着同時計測



アラーム・時報の使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⓐボタンを押し、アラームモードにします。

■ アラーム・時報について

●通常アラーム（アラーム1～アラーム5）
設定した時刻になると10秒間の電子音が鳴ります。

●スヌーズアラーム（アラーム1のみ）

スヌーズ機能をONにすると、設定した時刻に10秒間の電子音が鳴り、5分おきに合計7回（約30分間）報音を繰り返します。
なお、スヌーズアラームのときは、ボタンを押して音を止めても再び鳴り出します。

●ブライタラーム

暗いところに約30～35分以上置いたあと、明るいところで約15～20分経過すると、10秒間の電子音が鳴ります。

●時報

毎正時（00分のとき）に“ピッピッ”と電子音を鳴らすことができます。

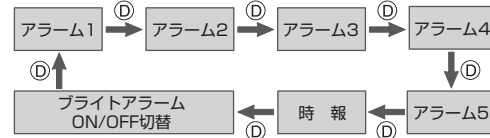
■ アラーム時刻のセット

1. アラームを選ぶ

アラームモードのとき

ⓐ ボタンを押します

⇒ ⓐ ボタンを押すごとに表示が以下の順で切り替わります。セットしたいアラームを選びます。



2. セット状態にする

ⓐ ボタンを約1秒間押します

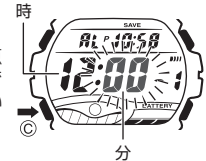
⇒「時」が点滅します。
※アラームマーク“1”が点灯し、自動的にアラームONになります。



3. セット箇所を選ぶ

ⓐ ボタンを押します

⇒ ⓐ ボタンを押すごとに点滅箇所が「時」と「分」で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。



4. 点滅箇所のセット

ⓐ または ⓑ ボタンを押します

⇒ ⓐ ボタンを押すごとに1つずつ進み、ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。



※ ⓐ・ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りができます。
※「時」のセットのとき午前/午後（P）、または24時間制にご注意ください。
※基本時刻を24時間制にしているときは、アラーム時刻も自動的に24時間制で表示されます。

手順3.と4.の操作を繰り返して、アラーム時刻をセットします。

5. セットを終わる

ⓐ ボタンを押して、点滅を止めます

※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。
●アラーム1がスヌーズアラームのときにセット操作を行ないますと、スヌーズ機能はOFFになります。

■ アラーム・時報のON/OFF 設定

準備：アラームモードのとき、ⓐ ボタンを押して、設定したいアラームまたは時報表示を選びます。

ⓑ ボタンを押します

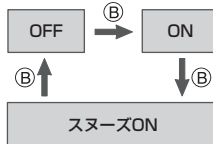
⇒ ⓑ ボタンを押すごとに、以下のようにアラーム・時報のON/OFFが切り替わります。

※それぞれのマークが点灯しているときがONとなり、アラーム・時報が鳴ります。



<アラーム1>

●アラーム1



<時報>

●アラーム2～5、時報、ブライタラーム



<ブライタラーム>

■ 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと、音が止まります。

※スヌーズアラーム機能中のときは、約5分後に再び鳴り出します（スヌーズ中はスヌーズマーク“SNZ”が点滅します）。

※スヌーズアラーム機能中のときに以下の操作を行ないますと、スヌーズアラーム機能が中断されます。

- アラームモードでアラーム1をOFFにしたり、通常のアラームに切り替えたりするとき。
- アラームモードでアラーム1をセット状態にしたとき。
- 時刻モードで時刻セット状態にしたとき。

■ モニターアラーム

アラームモードでⓐ ボタンを押し続けると、押し続けている間、電子音が鳴ります。

デュアルタイムの合わせ方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⓐボタンを押し、デュアルタイムモードにします。

デュアルタイムとは、現在時刻とは別に海外時刻などもう1つの時刻を30分単位でセットできる機能です。

※デュアルタイムの「秒」は基本時刻の「秒」に連動しています。

※基本時刻を24時間制にしているときは、デュアルタイムも自動的に24時間制で表示されます。

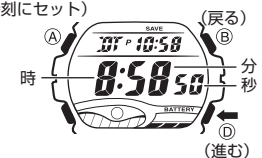
■ デュアルタイムのセット

デュアルタイムモードのとき

ⓐ または ⓑ ボタンを押して、デュアルタイムを合わせます

⇒ ⓐ ボタンを押すごとに30分ずつ数字が進み、ⓑ ボタンを押すごとに30分ずつ戻ります。

（基本時刻にセット）



※ ⓐ・ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。

※デュアルタイムは30分単位でセットできます。

※ ⓐ ボタンを押すと、基本時刻と同じ時刻でセットされます。